

Rotary International District 2700 Fukuoka North Rotary Club
国際ロータリー第2700地区 福岡北ロータリークラブ

SPECIAL REPORT

週報別冊特別版



創設会員手記

「福岡北RCでの33年間、
そして今クラブに思うこと」

葉山 孝

福岡北ロータリークラブ

葉山 孝

福岡北 RC の歴史のなかで…

ひよっとしたら

一九八一年つまり当クラブの設立一・二年前、当時私は総合メディアカル(株)の代表をしていたこともあって、お取引銀行の取締役支店長からぜひ某 RC に入会してほしいとの要請があり、RC のことは何も知らないままさっそく入会申し込みをしました。しかし、それからある程度時間が経過してもなんら連絡がありません。不審に思っ支店長にお尋ねしたところ「残念ながら選考委員会をとりませんでした」と申し訳なきそうなお返事でした。あとでわかったことですが、そのクラブの選考委員長がドクターであって、その病院のエリア内に、わが社の有力取引先で新しく大きな病院を建設すべく準備・手続きをすすめていたのです。そんな背景があつての委員会の結論ですが、その可否は別として、**おかげさまで北 RC に在籍させていただいております。**

ちよっとだけ

一九九二年の八月、たしか筑紫ヶ丘ゴルフクラブだったと思いますが、北 RC のコンペが終わった帰りの車中で、この七月会長になられたばかりの前田三男さん(私は副会長)から「葉山さん来週から福大で検査入院することになったので**ちよっとだけ会長代行お願いしますよ**」というお話がありました。

そのときは深刻な印象はなかったのですが、承知しましたと軽くお引き受けいたしました。病状は悪化し翌年一月には上京して治療されたのですが、残念ながら不帰の客となりました。

その間常盤初代会長や平野特別代表なども、お亡くなりになられたと思いますが、自らの会長職、十周年記念行事も含めて長い・長い二年間でございました。

北の国から

一九九四年ようやく会長の重責から解放されて、大学の同窓夫婦五組でヨーロッパ旅行を楽しみました。ところが帰って最初の例会の日に、新家パストガバナーから呼び止められ「君も知っているとおりに、次の地区大会のホストを当クラブでやるんだけど、その大会会長を君にやってみようと思ったんだよ。松田次期ガバナーとも話しあつてね」(注)設立後十年ぐらまでは新家、平野さんをはじめ親クラブ出身の方のご意向がクラブ運営に大きな影響力がありました。

そんな経緯もあつて大会会長を、お引き受けしたのですがそれは大変なことでした。内容は記録誌をご覧になればお分かりですので省きますが、ただ香月会員にご担当いただいた作家 倉本聰さんの記念講演「北海道で考える」というのが心に残ります。

というのも、そのころテレビで「**北の国から**」というのが放映され、その主題歌「遙かなる大地より」を歌うさだまさしさんの歌声がおおらかで、さわやかで、それでいてどこか郷愁のあるあのメロディが今でも耳に残っています。

いづれにしても地区大会は成功だったと思いますが、それは松田ガバナーをはじめ皆さんをまとめていただいた岩崎幹事、体調を崩してまで尽くされた貞弘副幹事ほか全会員のご協力によるものと、あらためて感謝申し上げます。



Takashi Hayama Profile		生年月日	1930年9月10日
福岡北ロータリークラブ 入会年月日	1983年6月3日	思い出の映画 (出来ればその理由)	長崎ふるふら節 (長崎大学卒のため)
座右の銘 (又は好きな言葉)	和敬清寂	思い出の音楽 (出来ればその理由)	北国の春 (カラオケ)
尊敬する人 (又は人生の恩人)	辻村 鈴 (茶道の師匠 100才で没)	思い出の場所 (出来ればその理由)	モン・サン・ミッシェル
趣味	茶道(鎮信流)・菜園	好きな花	半夏生 (ハンゲショウ)

四つのテスト

一九九六年音楽が好きだった本間 四郎さんがガバナーに就任され、なぜかまた私が分区代理(今のガバナー補佐)に指名されました。当時確か当クラブは第三分区だったと思いますが、管内に十五クラブがありました。それを「二つに分割してくれ」というのが、ガバナーからの指示でした。どういう基準で分割したらいいのか、親と子の関係か、歴史的あるいは地理的背景かいろいろ悩みましたが、結果的に現状のとおりとなり、次年度に二七〇〇地区の分区再編につながっていきました。

これまでいろいろと体験・勉強させていただきましたが、いまだに「奉仕」とはどういうことなのか、十分理解できておりませんが、**ただ四つのテスト**だけはいつも自問自答しているつもりです。

さてもう三十数年、皆様には大変お世話になりましたが、わが北 RC は本当に楽しいクラブです。しかし今はただご迷惑がかからないよう、いつ退会すべきか引き際のみを考えております。



半夏生

半夏生と書いて、はんげしょうと読みます。かつては夏至から数えて11日目とされていましたが、今では地球上の黄経100度の点を太陽が通過する日になっています。7月2日頃にあたります。この頃に降る雨は「半夏雨」(はんげあめ)と呼ばれ、梅雨の後半にあたり大雨になることが多いようです。この日は、農家にとっては大事な節目の日で、この日までに農作業を終えて、この日から5日間を休みとするところもあります。そういうところでは、ハンゲという妖怪が徘徊するという言い伝えがあり、この時期に農作業をしてはいけないという戒めになっています。その日までに田植えを済ませないとまずいという物忌みと、勤勉な農民に対する骨休めを、妖怪の徘徊に喩えて奨励したものと解せます。半夏生は、植物の半夏から来ていて、半夏は、カラスビシャク(烏柄杓)というサトイモ科の植物です。この時期の半夏は、葉の半分ほどが白くなります。「半化粧」とも呼ばれ、それで半夏生といわれるようになりました。